



「手に手・
心と心を」

第5回ロータリー-日韓親善会議

地区クラブ奉仕委員長 中 利太郎

第5回・ロータリー-日韓親善会議は、韓国より200余名と日本国内から約600名(当地区27名)のロータリアンおよびそのご家族が参加して「手に手・心に心を」をテーマに、2月25・26日の両日仙台市青葉仙台国際センターにて開催された。

会議第1日目は陸上自衛隊東北方面音楽隊の日韓両国歌曲演奏によるオープニングコンサートで開幕、第1本会議は日韓親善連絡委員会委員長菅野多利雄元RI理事の開会点鐘、日韓両国歌、ロータリーソングの斉唱、第5回ロータリー-日韓親善会議実行委員長菅原周一PGの開会の挨拶、日韓両国親善連絡委員会委員長による来賓並びにRI現元役員の紹介があったのち、第5回ロータリー-日韓親善会議菅野多利雄議長、ホストクラブ塩釜RC工藤欽也会長の歓迎の挨拶があった。菅野議長はこの挨拶の中で「ロータリーの目的は国際間の理解、親善を通じての平和の確立にある。日韓両国は日本人にとっても、韓国人にとっても未来永劫に隣国を形成する二つの国家である。

歴史的にさまざまな過去をもつ、この二つの隣国の平和的、友好的な協調、理解、信頼なくしては、世界の平和とくにアジアの平和などを唱えるのは机上の空論であり、砂上の楼閣を築くようなものである。日韓両国民1人ひとりがお互に顔をあわせ交流を積重ねることによって、それまで抱いていた先入観が一挙に消えることがある。このような草の根運動こそが日韓両国の新しい時代を築いてゆくためにかけがいのない運動であると思う」と述べ、この会議を有意義なものにしようと提唱した。

次いで、来賓の駐仙台大韓民国鄭普永総領事、宮城県本間俊太郎知事、仙台石井亨市長から祝辞があり、韓日親善連絡委員会委員長呉在璟氏の基調講演が行われた。呉委員長はこの講演において「私達は韓国人が一番嫌う人間が日本人であり、

※ 次頁へ続く



↑ 日韓両国歌の斉唱
↓ ロータリーの現況報告(日本)をする吉田ガバナー



↑ 左は吉田ガバナー、右は第3650地区鄭ガバナー
↓ 懇親会場スナップ



※ 前頁の第5回日韓親善会議の続き

日本人が一番嫌う人間が韓国人であるとの不幸な現実には生きている。望ましい協力関係を深めるためにも両国の中に横たわる不信を客観の情をもって反省し、理解と親善を進めることによってよりよき隣人関係を創り上げなければならない。日本と韓国ロータリーはこのような不幸な歴史の上に立って両国のよりよき今日と明日を共に生きる道を切り開いて行かねばならない。私達はサブ-R I会長のテーマ「自分を越えた眼を」に一層の心を致さなければならない。私達が共に生き行くこのロータリーを通じて日本人と韓国人とが仲良く手に手を取り心をつなぐためには私達は何をどのように努めるべきか、偏見をすてて本当に信じあう私達でなくてはならないことである。誠実と勇気と利他によって花を開かせたロータリーの英知は四つのテストから始まるといえる。私達全てが真なる本当のロータリアンであらねばならぬ。それはロータリーの創始者ポール・ハリスの心を私達の心とすることである」と心の平和、相手の立場に立って物事を考え、力をつくすことを強調した。

本会議終了後、親善アトラクション、歓迎パーティーがあって、第1日目を終了した。

翌26日は午前「日韓親善に果すためのロータリアンの役割」をテーマにパネルディスカッションが行われ「21世紀の韓国・日本文化の地平」と題して大韓民国前文化部長官李御寧氏の、午後に入って「ここが地球の真中です」との演題で永六輔氏の記念講演があり、次いでロータリーの現況報告(日本の現況を当地区吉田ガバナー、韓国の現況を第3650地区鄭ガバナー)、部門別会議に移り、I世界社会奉仕 II姉妹クラブ III青少年交換について活発な質疑応答が行われた。その後、米山奨学生のスピーチ、主催者の挨拶があって全員で「手に手つないで」を合唱し、次回韓国での再会と、近くて近い国の実現のため相互親善の増進に更なる努力をすることを誓いあって2日間に亘る感動的な会議の幕が閉じられた。